

社会とともに発展を遂げる企業であるために

2018

CSR 報告書

Corporate Social Responsibility

JOT



Shift for the Next

安全の徹底と質の高いサービスで
未来への責任を果たします

【CONTENTS】

会社概要	01	Social		Governance	
トップメッセージ	03	お客様とのかかわり		コーポレートガバナンス	
巻頭特集	05	品質管理	12	コンプライアンス	18
日本石油輸送のCSR推進体制	09	安全	13		
		地域社会とのかかわり	15		
Environment		従業員とのかかわり	17		
環境とのかかわり	11				

【編集方針】

「CSR報告書2018」は、JOTグループを支えてくださっている全てのステークホルダーの皆さまに、JOTグループが取り組んでいる様々なCSR活動を広く発信することを目的に発行しています。巻頭特集では、輸送会社にとって最も重要な「安全への取組み」について輸送に携わる従業員の熱い想いとともにご紹介しています。また、JOTグループのCSR推進テーマの項目に基づき、各活動の考え方、実績、取組み内容について**E**(環境)**S**(社会)**G**(ガバナンス)の観点より報告しています。

【対象期間】

原則として、2017年4月1日から2018年3月31日までを対象期間としていますが、一部、2018年4月以降の内容も含んでいます。

【対象範囲】

日本石油輸送株式会社
およびグループ会社5社

【発行時期】

2018年9月

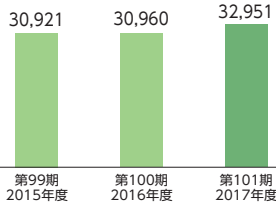
【会社概要】

社名	日本石油輸送株式会社 Japan Oil Transportation Co.,Ltd.
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立	1946年3月27日
資本金	16億61百万円
従業員数	連結1,458名、単体161名(2018年3月31日現在)
事業内容	1. 石油製品(ガソリン・灯油等)の鉄道タンク車輸送・貨物自動車輸送 2. 高圧ガス(LNG等)の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送および複合一貫輸送 3. 石油化学製品等の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送 ならびに国内および国際複合一貫輸送、各種コンテナのリース 4. 鉄道用冷蔵・冷凍コンテナ等のレンタル・リース 5. 太陽光発電事業
グループ会社	株式会社エネックス 近畿石油輸送株式会社 株式会社ニチユ 株式会社ニュージェイズ 株式会社JKトランス

連結業績

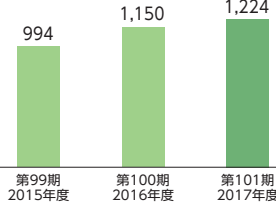
売上高

単位:百万円



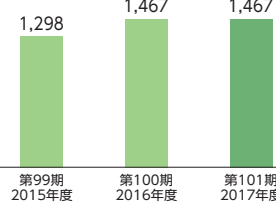
営業利益

単位:百万円



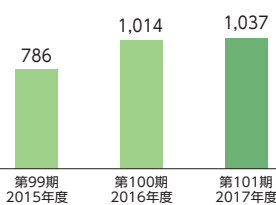
経常利益

単位:百万円



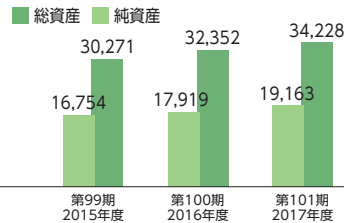
親会社株主に帰属する当期純利益

単位:百万円



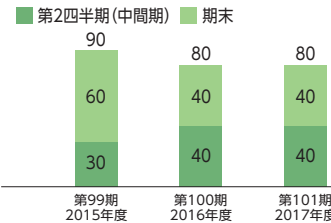
総資産・純資産

単位:百万円



1株当たり配当金

単位:円



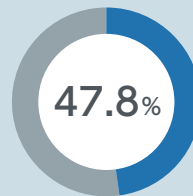
セグメント別事業紹介

石油輸送事業



鉄道タンク車輸送と自動車輸送を両軸に燃料油の効率的かつ安全な輸送を実現しています。

売上高構成比



2017年度 売上高

157.4億円

高圧ガス輸送事業



高圧ガスの安全・安定輸送をモットーに毎日の生活と経済活動に貢献しています。

25.6%

84.4億円

化成品・コンテナ輸送事業



様々な輸送容器、輸送手段を組み合わせ、最適な物流サービスを提供しています。

26.1%

85.8億円

太陽光発電事業



室蘭・郡山・神栖・蒲郡の4か所に太陽光発電設備を導入し、環境負荷低減に貢献しています。

0.5%

1.8億円

会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス



日本石油輸送株式会社
代表取締役社長

原 昌一郎

中期経営計画達成のために

JOTグループは「Shift for the Next 安全の徹底と質の高いサービスで未来への責任を果たします」というキャッチフレーズのもと、2019年度において、連結売上高330億円以上、営業利益12億円以上、経常利益15億円以上という中期経営計画を掲げ、計画達成に向けた取組みを進めています。

中期経営計画1年目となる2017年度は、順調に進捗し、2018年度においても引き続き収益力の強化を目指し、各輸送事業において新規顧客の獲得および輸送シェアの維持・拡大に取り組んでまいります。

さらに、LNG輸送、水素輸送、化成品における海外輸送等の成長分野に対し積極的な設備投資を行うなど、事業の拡大に向けた取組みを加速させてまいります。

鉄道と自動車は「競争から共存」へ

JOTグループでは鉄道、自動車および船舶といった多様な輸送手段を活用する「複合一貫輸送」を行うことにより、モーダルシフトを推進しています。

現在、自動車輸送を取り巻く環境は、人手不足や働き方改革の推進など、構造的かつ喫緊な問題が山積し、過去にない厳しい状況が継続する一方、鉄道輸送においては、これを機に積極的にご利用いただくための様々な施策を打つ絶好のタイミングにあるといえます。

まさに、鉄道と自動車は「競争から共存」の時代へ向かっており、JOTグループの強みをさらに発揮していきたいと考えています。

時代の変化に向き合い、 輸送を通じて、 持続可能な社会の実現に 貢献してまいります。

持続可能な社会の実現に向けて

深刻化する地球規模の課題解決へ向け、2015年の国連サミットにおいて、世界が2030年までに達成すべき17の目標を定めた「SDGs(持続可能な開発目標)」が採択され、また、同年、温室効果ガス排出削減等のための新たな国際的な枠組みとして「パリ協定」が発効されました。途上国・先進国を問わず、全ての国が取り組むべき目標が示され、すでに世界各国で、政府だけでなく企業においても具体的な取組みが進められています。

このような国際的な潮流の中、JOTグループにおいても、事業を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

ステークホルダーの皆さまからの信頼を得るために

JOTグループは創業の精神である社是「奉仕こそ我が務め」を従業員一人ひとりが誠実に実践することで社会から必要とされ、社会とともに発展していく企業を目指しております。

全てのステークホルダーの皆さまと、より強固な信頼関係を築くため、これからもJOTグループの従業員が一丸となり、ESG(環境・社会・ガバナンス)を意識した企業活動をさらに進めてまいります。

皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

運輸安全マネジメントのさらなる進化 「安全総合教育センター」

JOTグループの自動車輸送における中核企業であるエネックスは、安全レベルの統一化と向上を図り、荷主様からの信頼を高めるため、安全総合教育センターをはじめとする、4か所の教育研修センターを開設しました。

安全レベルの統一、安全意識の共有

エネックスはこれまで、安全の徹底を最重要の経営課題と位置づけ、安全輸送に関する教育・研修に経営資源を積極的に投入してきました。しかし、過去の教訓(事故事例)が十分に活かされていなかったことに加え、教育・研修の内容が事業所ごとに異なるなど、改善すべき課題も散見されていました。

こうした問題を解決し、安全レベルの統一化と向上、全社員の安全意識の共有化を図るため、2017年に新たに設置したのがエネックスの安全総合教育センターです。

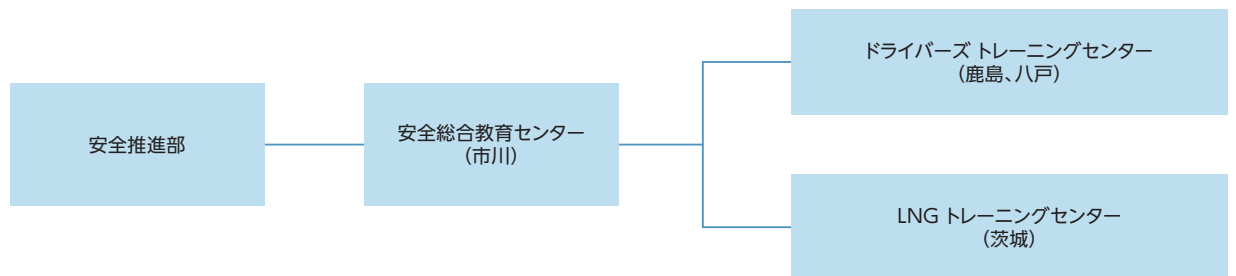
安全総合教育センターは上部組織である安全推進部、下部組織である3か所のトレーニングセンターと緊密な連携をとりながら、包括的かつ体系的な安全教育を展開しています。

安全の徹底は、石油やLNG、水素等の危険物を輸送するJOTグループにとって永遠の経営課題であり、社会に対する最大の責務です。JOTグループは業界トップクラスの運輸安全マネジメントにさらに磨きをかけ、安全・安心で高品質な輸送サービスを通じて日本の経済と社会に貢献してまいります。



エネックス 専務取締役 竹本 明彦

組織図



各センターでは、教育訓練指導者として選任されたスーパーバイザーが中心となって実践的な訓練を実施しています。

スーパーバイザーは作業・運転に関する知識・経験に優れており、かつ、指導力を兼ね備えた安全指導主任・班長から選抜されています。

現在、石油輸送業務およびLNG輸送業務において、計10名程度のスーパーバイザーが、後進の指導にあたっています。

総合的な安全教育を行う

安全総合教育センター

レクチャールーム



座学を通し、過去の事故事例や法令等、基礎知識全般を学びます。

シアタールーム



過去の事故事例（ドライブレコーダー映像）を視聴し、映像から事故の原因等を学びます。

エキシビジョンルーム



タンクローリー模型シミュレーター
20KLトレーラーをモデルにしたスケルトン模型。この模型を使用して、過去に発生した事故を再現し、原因等を学びます。



全機能集約型タンクカットモデル
2KLミニローリーを改造し、忠実にタンクローリーを再現しています。タンク上部からしか確認することができないエア・手動式底弁の動きを真正面から確認できます。



ハイクローリーシステムシミュレーター
混油事故を未然に防止するハイクローリーシステムシミュレーターを使用し、単独荷卸（DCD）作業の体験実習を行います。

最新設備とベテラン講師陣のもと、体系的な安全教育を推進

エネックスでは、安全知識の習得を目指す座学から作業実習・運転実習まで、総合的かつ体系的な安全教育プランを推進しています。その中心に位置するのが、安全総合教育センターです。基礎知識を学ぶためのレクチャールーム、事故事例を学ぶシアタールーム、カットモデルやスケルトン模型を使って体験型実習ができるエキシビジョンルームなど、安全教育の効果を高める先進機器・設備を完備。講師陣はエネックス安全推進部のメンバーやスーパーバイザーが担当しています。今後も、充実した設備・体制でJOTグループの安全教育をリードしてまいります。

現場の声



エネックス関東支店
安全指導班長 坂本 健一

安全総合教育センターで後進の指導にあたっています。入社以来、ガソリンだけでなく、LNGや水素の輸送にも携わってきました。指導に際しては、「4-5-2ルール」という、走行時は車間を4秒以上空ける、停車時は車間を5m以上とる、信号が青になったら2秒待って発進するというルールを遵守すること、つまり余裕を持った運転が大切であると教えています。センターにはタンクのカットモデルがあり、内部構造を見て、車両の仕組みや操作方法に対する理解を深めることができます。今後も、日本のエネルギー輸送の一翼を担っているという自負を持って乗務や指導にあたっていきたいと考えています。

新人ドライバーの教育のため、トレーラーに同乗してスタンド回りをすることもありますが、現地では時間の制約から十分な指導を行うことができません。その点、センターには現地と同じ設備が揃っているので、事前に説明したり、帰社してから現地で伝えられなかったことを教えたりできます。またシアタールームやエキシビジョンルームを活用して、事故事例の確認と安全意識の浸透を図っています。私たちは石油や高圧ガス等の危険物を輸送しており、一歩間違えると重大事故につながるため、経験が長いからと慢心してはなりません。常に初心を忘れず、冷静沈着な運転と機器操作に努め、安全輸送に貢献していく決意です。



エネックス関東支店
安全指導班長 齋藤 直久

運転教育に特化した

ドライバーズ トレーニングセンター

会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかわり

Social
お客様とのかわり
品質管理

Social
お客様とのかわり
安全

Social
地域社会とのかわり

Social
従業員とのかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス



後退訓練
後退で壁の20cm手前まで近づけ、停車させます。



後退訓練
死角になる範囲を何度も確認しながら後退します。



荷卸訓練
作業手順を遵守し、基本に忠実な作業を心がけます。



縦列駐車
幅10mの枠にトラクターとトレーラーの角度が90度になるよう停車させます。

車両の仕組みを知り、運転技能を磨く

ドライバーズ トレーニングセンターでは、「高い安全意識」と「卓越した技能」を併せもつドライバーの育成を目指し、スーパーバイザーの指導による、顧客先での移動を想定した後退訓練や、事故発生後の対処訓練等、実態に即した訓練を実施しています。また、絶え間なく進歩する車両の仕組みを理解するため、構造から整備方法にいたるまで実物の車両を使用して指導をしています。乗務員が日々の業務での気づきを活かし、自ら提案した幅広い内容をもつ教育プログラムを運用して、安全輸送の継続と荷主様からの信頼向上に取り組んでいます。

現場の声



エネックス 関東支店
安全指導主任 **鈴木 英夫**
(スーパーバイザー)

縦列駐車や後退等の難易度が高い車両操作では、ドライバーとしての長い経験やノウハウが頼りとなります。しかし、どんなに卓越した技能を修得していたとしても、実際の業務においては「何度でも車を止め、下車して安全確認をすることが大切だ」と教えています。

私たちが若手だった頃は、全社的な教育研修施設がなかったので、日々の業務の中で運転技能を磨いてきました。今はトレーニングセンターで技能の向上に取り組むことができるので、乗務員のレベルも安全に対する意識も、格段に向上していると感じています。

ドライバーズ トレーニングセンターでは主に若手ドライバーを指導しておりますが、受講者と指導員が密接なコミュニケーションを取り、安全意識と運転技能を高めていける場所が良いのではないかと思います。トレーラーは死角が多く、上手に扱うには高度な技術が求められますが、それ以上に大切なことは運転の基本を重視することです。車間距離をしっかりとり、早めにウインカーを出すといった基本的な動作を徹底することで、事故のリスクを減らすことができます。他のドライバーのミスを他人事だと思わず、自分に置き換えて考え、安全第一で行動することがドライバーの使命だと信じています。



エネックス 関東支店 鹿島営業所
安全指導副主任 **柿木 秀一**
(スーパーバイザー)

LNG輸送作業訓練に特化した LNG トレーニングセンター



カットモデルを用いた講義
構造の特性や仕組みを理解し、機器類の適切な操作方法を習得します。



LNG流動模型
LNGや圧力の流れを可視化することで、積込、納入作業の仕組みが理解できます。



液体窒素を使用した冷熱実験
LNGと同様の超低温の液体窒素を使用し、LNGの物性を学びます。



LNG漏洩再現と耐冷服実証実験
LNGの漏洩を再現し、耐冷服の有効性や漏洩事故への対応を確認します。

設備が充実した教育研修施設でLNGの安全輸送をサポート

LNGトレーニングセンターはLNGの輸送と各種作業に特化した訓練施設で、LNGの物性を踏まえた教育研修を実施しています。LNG輸送に関する知識や知見を学ぶための講義室や、カットモデルを用いてバルブ類や機器類の操作方法を習得するための実習室を備えているほか、トレーニング室では実物のLNGローリー車や配管を使い、実践さながらの訓練を行っています。

今後も、LNGを熟知したドライバーの育成に努め、安全かつ確実な輸送を支えてまいります。

現場の声



エネックス 関東LNG支店 袖ヶ浦営業所
安全指導主任 市村 克美
(スーパーバイザー)

私は、ドライバー歴約30年で、一貫してLNGの輸送に携わってきました。LNGはタンクの中を見ることができないため、計器を通じてタンク内部の状態を判断するしかありません。またLNGは1分間に600リットル程度の液量を流しますが、流れる音がまったく聞こえないので、危険を危険と認識できない恐れがあります。そのため、LNGの物性を十分に理解しておくことが、リスク管理の前提条件となります。

LNG トレーニングセンターで指導する際、新人や若手ドライバーには、LNGに関する知識をしっかりと習得すること、そして高圧、超低温という物性を十分に理解し、慎重に作業することを教えています。

今後も高い安全意識を持った乗務員の育成に注力し、LNG輸送の安全・安心を追求していきます。

【企業理念に基づいた社会への貢献】

社 是

奉仕こそ我が務め
Service is my business

「企業は単に利潤を追求するだけではなく、業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」

社 是

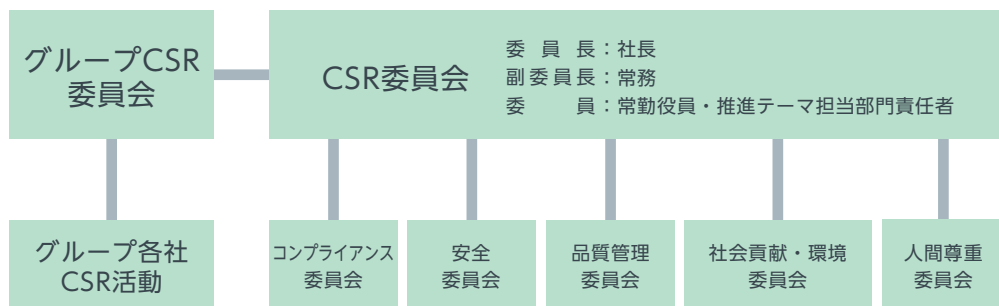
JOTグループ・ミッション
安全・フェア・信頼・チャレンジ・ハーモニー

JOTグループ倫理行動基準

CSR推進活動基本方針

JOTグループは、社会から必要とされ、社会とともに発展を遂げる企業を目指し、「社是」「JOTグループ・ミッション」を“道しるべ”として、ステークホルダーの皆さまに対して社会的責任を果たしてまいります。

【CSR推進体制】



日本石油輸送はステークホルダーの皆さまからの信頼をさらに強固なものとするため、CSR委員会を中心に、6つのCSR推進活動テーマに基づいた委員会による活動を展開しています。また、グループ一体となってCSR活動を推進するため、グループCSR委員会を設置しています。

会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

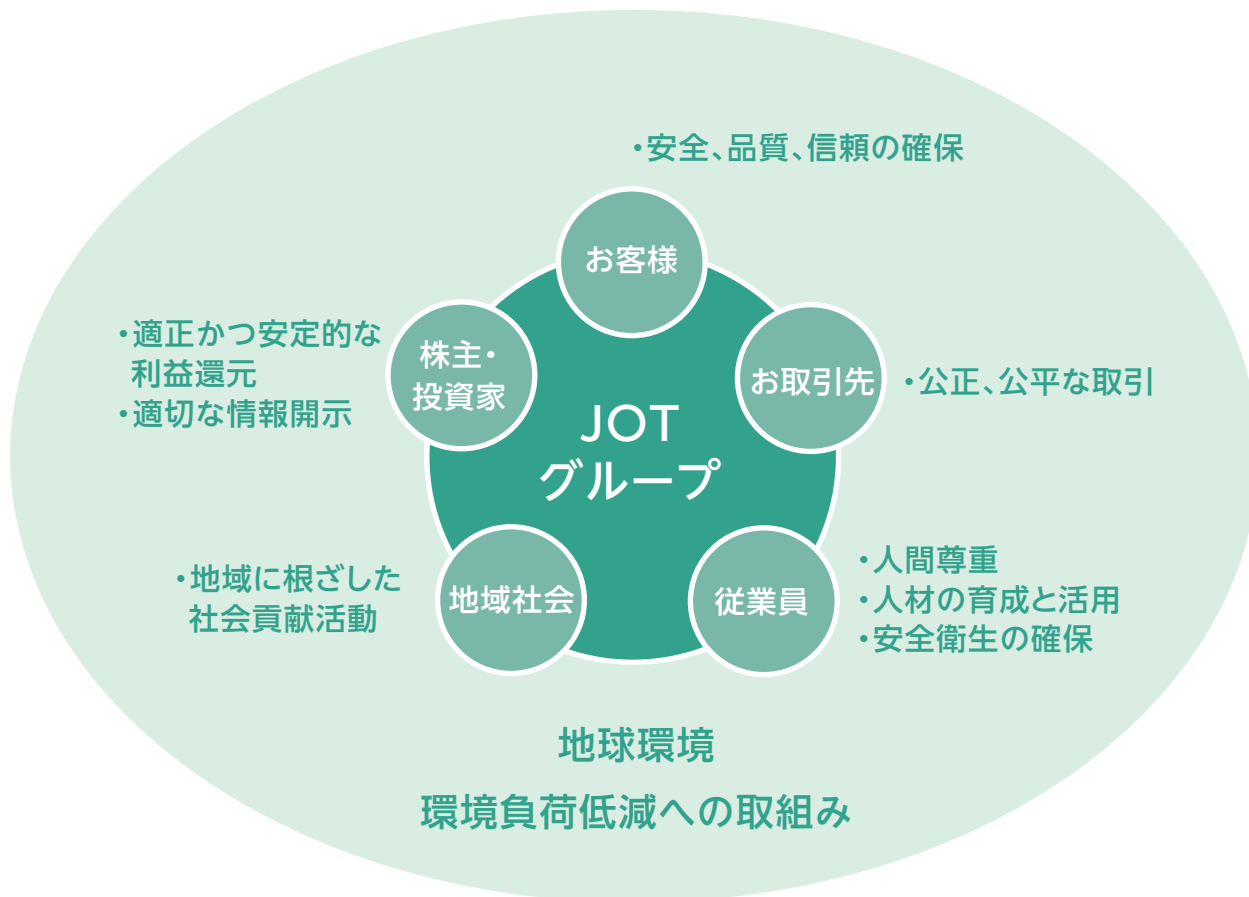
Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

【JOTグループを取り巻くステークホルダー】

企業の社会的責任を果たすことにより、株主、お客様、従業員をはじめとする全てのステークホルダーからの信頼を確実なものとし、社会とともに持続的に発展していくことを目指します。



【事業活動を通じたSDGsへの貢献】

JOTグループでは、持続可能な社会の実現に向けて、事業活動を通じたCSR活動を推進しています。

考え方を同じくするSDGsの達成に向け、重点的に取り組む目標を決定し、地球規模の課題解決に貢献してまいります。

*SDGsとは
2015年9月の国連サミットにおいて、全会一致で、Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」が採択されました。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までに地球規模で解決すべき17の目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



地球環境に配慮した経営を「モーダルシフト」で推進しています。

1 環境基本理念に基づく環境マネジメント体制

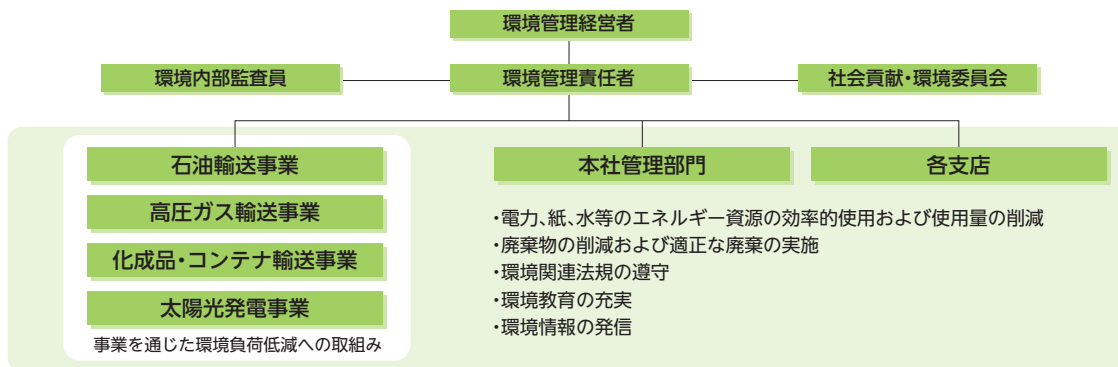
日本石油輸送は環境基本理念・環境基本方針のもと、事業を通じた環境保全への貢献に全社で取り組んでいます。

環境基本理念

人類が自然環境と共存していくために地球環境の保全是世界共通のテーマであり、環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、あらゆる活動を通じて、自然との調和に努め、環境負荷の低減を図り、継続的に環境保全活動を推進する。

環境基本方針

- 1 環境関連法規の遵守
- 2 自然環境保全
- 3 資源・エネルギーの効率的利用
- 4 循環型経済社会の実現
- 5 環境マネジメントシステムの継続的改善
- 6 環境方針の周知と公表



2 輸送を通じて環境負荷低減に貢献

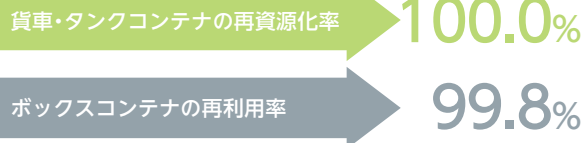
石油タンク車輸送、化成成品輸送、コンテナ輸送におけるモーダルシフトの推進およびLNG輸送のほか、全国4か所に設置した太陽光発電設備での発電事業により、2017年度は976,937tものCO₂排出量削減に貢献しました。これは樹齢40年の杉の木が1年間に吸収するCO₂量8.8kgで換算※すると111,016千本分であり、1ヘクタールあたり1,000本の立木があるとすると秋田県とほぼ同じ面積の杉林が吸収するCO₂量に相当します。(※出典：林野庁ホームページ)

石油タンク車輸送	122,176t-CO ₂
LNG輸送	842,898t-CO ₂
化成成品輸送	3,938t-CO ₂
コンテナ輸送	5,621t-CO ₂
太陽光発電事業	2,304t-CO ₂

事業活動によるCO₂排出削減量 976,937t-CO₂

3 資源循環への取組み

廃棄物の発生量削減を推進するとともに、資源の再利用化にも積極的に取り組んでいます。不用となった貨車・タンクコンテナはリサイクル資源として有効利用し、ボックスコンテナは倉庫目的でのリユースを基本としています。



4 次世代クリーンエネルギー輸送

水素は、燃焼してもCO₂を排出しないクリーンな次世代のエネルギーとして注目を集めています。JOTグループでは、固定式水素ステーションに水素を輸送する業務に加え、移動式水素ステーションにかかわる業務を受託しています。水素エネルギーの利用拡大に向けて、輸送の面から貢献しています。



会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

お客様に信頼される高品質な輸送サービスのご提供を目指します。

1 品質管理委員会

(1) 酒類メーカー、造幣局および国内提携デポ見学

2017年度は、活動テーマを「国内輸送ならびに国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究」とし、他社の生産物流拠点の見学や展示会等への参加により、品質管理に対する認識を高めました。



国内提携デポ見学



他業種見学

参加委員の声

① 酒類メーカー見学

製品への強いこだわり、他社製品との差別化に向けた取組みを学ぶことができました。また、ビン等の容器の軽量化や箱詰め使用する段ボールは角を落としているなど、製品の品質以外の物流面、安全面、消費者へのアピール等の工夫を感じることができました。飲料における味等のように明確に他社と差別化することは輸送容器では難しいものの、当社の「こだわり」を前面に出した商材、サービスの提供も良いのではないかと感じました。(石油部)

② 造幣局見学

現在ある貨幣は脈々たる研鑽の賜物です。偽造防止一つをとっても、その背景には様々な歴史があり、今の形があります。「偽造防止対策は国の信用問題」という言葉に、ことの重要性を改めて実感しました。貨幣の品質は、「日本」という国に直に関係する問題であり、それは造幣局が担っている責任です。「品質」は「責任」から生まれるということを学ぶことができました。(コンテナ部)

③ 国内提携デポ見学

タンクコンテナの洗浄は、日本で行うよりも、海外に持って行って洗浄の方が安いという話があり、それでもなお日本での洗浄を選択する企業は、どこに付加価値を見出しているのかと疑問を持っていました。実際に日本での洗浄は洗い直しが減多にないことや、中に入っていた製品によって様々な洗浄方法があるなど、安全性や確実性といった点が確立されているから選ばれていることが分かり、海外にはない日本ならではのサービスを学ぶことができました。(人事部)

(2) 品質管理システム対象支店への内部監査の実施

2017年11月に品質管理システム対象支店において、内部監査を実施しました。内部監査の結果、不適合事項および修正事項等の指摘はなく、品質管理システムの有効な運用を確認することができました。

2 品質向上への取組み

日本石油輸送では各部門とも容器メンテナンスの徹底や安全に配慮した輸送容器の提供により、品質の維持・向上に取り組んでいます。

石油部門では年1回の「タンク車自主点検」により、タンク車のバルブ・内部状態・外装・パッキン等消耗品のメンテナンスを実施しています。



LNG部門では高圧ガス保安法に基づく容器再検査をグループ企業内でも行っています。



化成品部門では、建造から一定期間以上が経過し、外観の劣化が著しいコンテナのリファビッシュ*を行い、性能を維持しています。

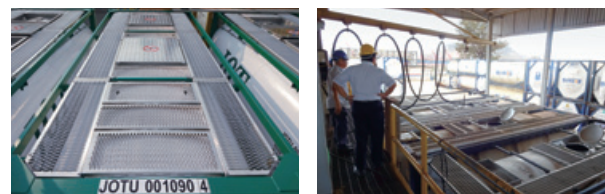
* 建造後10年経過を目的に、劣化した断熱材の取替え等の機能維持と経年による汚れが目立つ外装材の全面張替え・再塗装を行うことです。



コンテナ部門では、お客様により綺麗なコンテナを使用させていただくため、定期的な庫内清掃を行い、「コンテナ美化」に取り組んでいます。



海外事業部門では、コンテナ上部の全面歩み板等の安全仕様の拡充や、海外提携デポにおけるメンテナンスの品質チェックを定期的に行っています。



コンテナ上部の全面歩み板

海外提携デポの視察

会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

日本石油輸送の安全活動基本方針

スローガン 「勝ち取ろう SAFETY 1stで 顧客の信頼」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 法令と基本作業を守る

目 標

- ① 協力会社事故ゼロ
- ② 連絡車事故ゼロ
- ③ 作業事故ゼロ



1 安全強化月間

お客様へ安全・安心な輸送サービスを提供するために、「安全」に取り組む強化月間を7月と12月に設定し、安全活動の強化を図っています。

夏季である7月は「全国安全パトロール」を毎年実施し、各所における労災や事務ミス防止に努めています。

冬季である12月は連絡車事故ゼロを目標に掲げ、安全運転について、改めて確認するため、業務用連絡車に導入しているドライブレコーダーを活用した安全教育を実施し、従業員の交通安全意識の向上に努めています。

2017年度全国安全パトロール実施場所

- 7月 ● 関東支店 ● メンテナンスセンター
- 2月 ● 東北支店

(計3か所実施)



2 全国安全委員会の開催

安全活動の共有化の徹底、また、安全確保に向けた取組みの強化を目的に、安全委員をはじめとする各支店・事業所の安全推進者による「全国安全委員会」を設置し、安全重視の企業風土を確立するため、活動しています。

3 協力会社訪問ヒアリング

協力会社の方々に対し、日本石油輸送の安全方針や安全活動をご理解、ご協力いただけるよう、「協力会社訪問ヒアリング」を実施しています。

4 LNG研修

LNG輸送における理解を深めるため、LNGトレーニングセンターにおいて「LNG研修」を実施しています。積卸時の作業ポイントをはじめ、LNGの特性であるボウイング現象※1やアイシング※2の実施方法を体験することで、LNGの安全輸送の重要性を全従業員へ展開しています。



※1 ボウイング現象

急激なLNG流入によって配管上部と下部の温度差による金属収縮量の差が発生し、配管が弓状に変形する現象。

※2 アイシング

配管溶接部やホース結着部の漏洩に対し、濡れたウエスを巻き付け凍結させ漏洩を止める応急処置。

会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

JOTグループの安全活動基本方針

スローガン 「安全を仕事の中心に SAFETY 1st」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 「運輸安全マネジメント」体制の充実を図る
- ③ 法令と基本作業を守る
- ④ 迅速な連絡を徹底する

目標

- ① 混油(液)事故ゼロ
- ② 追突事故ゼロ
- ③ 物損事故50%削減



会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

1 安全外部監査の実施

グループ安全対策本部では、決められた安全活動計画に則った活動を徹底するとともに、事故の未然防止を図るため、「安全外部監査」を実施し、安全で確実な作業が一つひとつ忠実に実践されていることを確認しています。



車庫点呼場(エネックス新潟支店)

2 車庫長合同研修会

JOTグループのローリー輸送業務の要を担う車庫長を一堂に集め、さらなる安全風土の醸成、現場意識の向上を通じ、グループ体となった「お客様に信頼される高い安全レベル」の確立を目指すため、2日間にわたる研修を実施しています。



3 グループ会社 安全活動

● エネックス 運行管理者教育会の実施

エネックスでは、各車庫の運行管理者を一堂に集め、『運輸安全マネジメント』に則り、安全方針を着実に実践するため「運行管理者教育会」を実施しています。運行の要となる運行管理者のレベルアップを図り、さらなる安全運行を徹底しています。



● JKトランス 業務勉強会の実施



JKトランスでは、UDトラック株式会社様のご協力をいただき、全車庫の事務員を対象とした「業務勉強会」を実施しました。タンクローリーの製造工程を学ぶとともに、最新の安全装備を備えた大型車両の特性を理解するため、構内テストコースでの走行を体験する等、職務意識の統一化を図っています。

グループ安全標語

「誰にもあるはず「ヒヤリ」のサイン
後にまわさず“今”改善」



ゆっくりと確実に日々の業務に取り組んでいこうと思います。

「2017年度グループ安全標語」 考案者
近畿石油輸送営業部 北村 英二

社会とともに生きる企業グループとして、
継続して社会貢献活動を進めています。

～JOTグループの事業と関係が深く、主体性を発揮できる活動を目指して～

- ① JOTグループらしさを活かすことができる社会貢献の実施
- ② 従業員が主体性を持って参加できる社会貢献の実施
- ③ 社会の一員として、地域に根ざした社会貢献の実施

1 障がいをもつ方への支援活動

輸送事業に携わる企業グループとして、目の見えない方、見えにくい方が、安全に歩けるようにとの願いをこめて、盲導犬の育成・訓練・歩行指導を行っている「公益財団法人アイメイト協会」と「公益財団法人日本盲導犬協会」への支援を継続して行っています。

2017年度については、従業員が「公益財団法人日本盲導犬協会」を訪問し、協会職員や盲導犬ユーザーの方から盲導犬についての概要を学び、アイマスクを着用して盲導犬との歩行等を実際に体験することで、目の見えない方、見えにくい方に対する理解を深める活動を行いました。



「公益財団法人日本盲導犬協会」へ寄付金の贈呈



盲導犬PR犬による誘導体験

参加者の声

盲導犬への理解を深めました。

■コンテナ部 住永 直道

日常生活において、私自身が盲導犬と触れ合う機会はほとんどなく、街中や駅のホームでその姿を見かける程度でした。今回の往訪では、盲導犬の育成現場を見学したほか、盲導犬



PR犬との体験歩行もを行い、盲導犬が目が見えない方、見えにくい方にとって、かけがえのないパートナーであることを体感でき、大変貴重な経験となりました。

2 次代を担う子どもたちへの育成支援

わが国の将来を担う次世代の育成のために、子どもたちを交通事故から守る黄色い帽子や傘等を寄贈する活動を長年にわたり継続して取り組んでいます。

2017年度も黄色い帽子や傘等を本社、各支店近隣の小学校計9校、のべ462名の子どもたちへ寄贈しました。



「仙台市立宮城野小学校」へ黄色い帽子の贈呈

3 子どもの貧困支援

子どもの貧困は近年社会問題化しており、2013年6月には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立するなど、日本社会全体でこの問題への対策が進められています。

2016年から、貧困状態にある子どもへの支援や調査に基づく政策提言等、総合的に子どもの貧困対策に取り組んでいる「公益財団法人あすのば」に対する支援を行っています。

今後も子どもの貧困問題の解消を目指し、継続した支援を行ってまいります。



「公益財団法人あすのば」へ寄付金の贈呈

4 環境保全活動



「日本石油輸送の森」看板

環境に配慮した社会貢献活動として、神奈川県が森林の豊かな恵みを次世代に引き継いでいくために取り組んでいる「かながわ水源の森林づくり」の「森林再生パートナー制度」に2011年3月から参加しています。本制度は森林を整備するための寄付だけではなく、間伐、下草刈り、枝打ち等の森林を保全する活動を従業員自らが体験することによって、森林のはたらきやその重要な役割に関する理解を深めています。

5 地域に根ざした社会貢献活動

本社や支店・事業所を中心に地域に根ざした様々な社会貢献活動を行っています。また、グループ各社でも事務所近隣地域の道路清掃活動等を継続して行っています。

参加者の声

鈴鹿川河口の清掃ボランティアに参加し、地域環境の美化に努めました。

■中部支店 池田 祐一

四日市地区にあるコンビナート企業の社員や住民の方々と共に、鈴鹿川の河川敷でごみ拾いに参加しました。約7kmの道のりとなりましたが、周りの方々とコミュニケーションをとりながら活動することができ、貴重な経験となりました。今後も地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、このような機会があれば積極的に参加したいと思います。

参加者の声

品川区立三木小学校で開催された「品川区民まつり」に参加し、焼きそば等の調理や販売を行い、地域の方々と交流を深めました。

■経理部 村田 真帆

緊張と期待が入り混じる中、初めて参加した品川区民まつりでしたが、最も印象に残ったのは、たくさんの方々の優しさでした。受付や焼きそば・カレーの販売等、様々な場面で地域の方々と協力し交流することができました。また、「頑張ろうね」と声をかけていただいた時は、地域の方々と一丸となっておまつりを作り上げている実感が湧き、参加できたことをとても嬉しく感じました。

6 収集ボランティア

従業員に気軽に参加してもらう活動として、社会福祉団体等の取組みに協力し、収集ボランティア活動を継続して行っています。

2017年度実績	
使用済み切手	1,283gを寄贈し、その売却益が品川区内の老人用杖の購入に充てられました。
ベルマーク	741.3点を寄贈し、支援が必要な学校の備品購入に充てられました。

一人ひとりが充実した仕事と生活を。
 私たちは、ワークライフバランスに向けた取組みを推進しています。

1 「個の尊重」を主題とした人権啓発の推進

人権啓発の推進のため、働きやすい職場環境づくりを目指して取り組み、人権ポスターの掲示やDVD上映による意識づけ、また、職場環境・人権に関するアンケートを実施しています。

2 こころとからだの充実と健康管理

従業員の健康管理に向けた取組みとして、こころの健康管理を目的に「ストレスチェック」を実施しています。また、健康保険組合と連携し、からだの健康増進を目的としたウォーキングイベントも実施しています。

3 人材育成プログラムの充実

次代を担う若手社員の早期育成をさらに充実させ、OJT、OFF-JT、自己啓発支援を有機的に組み合わせた教育プログラムを実施しています。また、激変する事業環境に対応しうる多能的な人材の育成を目的に、部門・JOTグループを越えた横断的な業務勉強会を実施しています。

若手・中堅社員を対象とした集合研修



▲ LNG部門技能研修



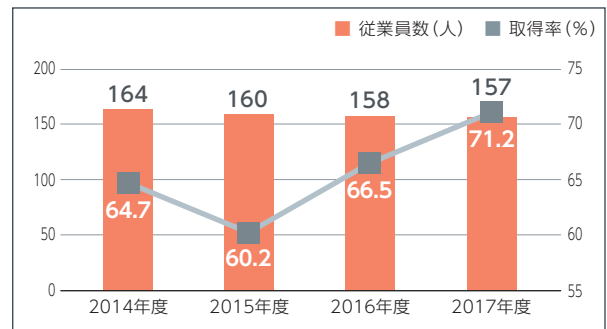
新入社員フォローアップ研修

4 ワークライフバランスに向けて

仕事と生活の両立支援として、子育てや介護をしながら、誰もが仕事と生活の調和がとれた働き方ができるよう、制度および職場環境の整備に努めています。出産・育児を行う従業員への理解と支援を行い、ワークライフバランスに向けた取組みを着実に進めています。

働きやすい職場環境の実現として、労働時間の管理、有給休暇取得促進や良好な人間関係の実現を進めました。一人あたりの有給休暇取得率70%超を実現しています。

有給休暇取得率



育児休職制度利用者の声

■ 総務部 宗像 知子

約2年の産休・育休を経て、今年4月に復職しました。夫の仕事の関係で平日は完全なるワンオペ育児のため、時間のやりくりで頭を悩ませ、子どもの体調不良等、突然の事柄に戸惑うこともあります。しかし、上司や同僚の温かいサポート、会社の制度にも助けられ、一個人として仕事を通じて社会とつながりながら、家では思う存分子どもに愛情を注いで過ごせることに、心から幸せを感じる毎日です。

周囲への感謝の気持ちを胸に、近い将来、後に続くママパパ社員を支える立場でも会社の力になれたらと思っています。

働くママの一日

- 5:30 起床
- 6:00 息子起床・朝食
- 7:00 息子を保育園へ送り出勤
- 9:00 始業
- 時短で勤務
- 15:30 退社
- 17:00 保育園に迎えに行き帰宅
- 18:30 息子と夕食
- 19:30 息子とお風呂
- 20:30 息子を寝かしつける
- 22:00 就寝



会社概要

トップメッセージ

【巻頭特集】
JOTグループの
安全教育

日本石油輸送の
CSR推進体制

Environment
環境とのかかわり

Social
お客様とのかかわり
品質管理

Social
お客様とのかかわり
安全

Social
地域社会とのかかわり

Social
従業員とのかかわり

Governance
コーポレートガバナンス
コンプライアンス

透明かつ公正な経営判断を行う経営システムの構築と コンプライアンスの推進に努めてまいります。

1 コーポレートガバナンスの強化

コーポレートガバナンスの強化・充実を経営の最重要課題の一つに位置づけており、透明かつ公正な経営判断を行う経営システムの構築の実現に向けた体制を構築・整備しています。

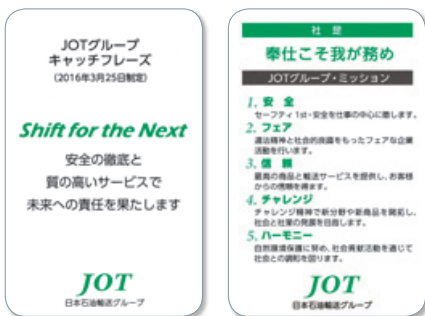
社外取締役および社外監査役については、企業経営のほか、財務・会計、法務その他専門領域における豊富な知識と経験を有し、客観的かつ公正な立場に立って当社経営の判断または監視・監督ができること判断される者を選任しています。

また、業務執行の迅速化と職務責任の明確化を図るため、執行役員を選任し、取締役会で定めた職務を執行させるなど、経営の執行と監督の分離、取締役会の監督業務の強化を図る体制を構築しています。

2 コンプライアンスの推進

CSR経営を推進していくうえで重要なことは、法令やルールはもとより、広く社会規範も含め遵守することです。JOTグループでは全役職員が、経営理念に基づき、事業活動全般において求められる法令・ルールを十分に理解し、さらに一個人・一市民として社会規範を尊重し、良識と責任をもって行動できるよう取り組んでいます。

経営理念については、全役職員に名刺サイズのカードを配布し、その浸透を図っています。



JOTグループ経営理念カード

(1) リスクマネジメントに対する取組み

事業運営に重大な危機が発生した際のリスクの顕在化の予防と、被害を最小限に抑え迅速に事業を継続させることを目的に、会社が抱える多種多様なリスクを1件ごとにシートにまとめ、これを毎年度見直すことで、リスクマネジメントに継続的に取り組んでいます。

(2) コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底を図っていくためには、全役職員一人ひとりの知識や意識を高めていく必要があります。そのため各種研修時において、各層の実態に即した教育や外部講師を招いた講演会を実施するほか、社内報やメールマガジンを用いてコンプライアンスに関連する情報の提供に努めています。

また、自分自身の行動の振り返りと、正しい行動に向けた再自覚を促すことに加え、経営理念や社内ルールおよび業務に関連する法令の理解を深めるため、セルフチェック方式による「コンプライアンスチェック」を実施しています。



コンプライアンス講演会



コンプライアンス通信(社内報)

(3) 内部通報(ヘルプライン)の運用

JOTグループ各社では、事業活動に伴うリスクや不正行為の早期発見と解決および未然防止の観点から「内部通報制度」を設け、社内報やイントラネット等により、制度の周知を図っています。

本制度では、通報者のプライバシーへの配慮や通報者に対する不利益な取り扱いを固く禁止しているほか、通報窓口も社内通報窓口に加え、社外通報窓口(弁護士事務所)を設置しており、より安心して通報できる環境を整備しています。

会社概要
トップメッセージ
【巻頭特集】「JOTグループの安全教育」
日本石油輸送のCSR推進体制
Environment 環境とのかかわり
Social お客様とのかかわり 品質管理
Social お客様とのかかわり 安全
Social 地域社会とのかかわり
Social 従業員とのかかわり
Governance コーポレートガバナンス
コンプライアンス

JOT

日本石油輸送株式会社

日本石油輸送株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番1号
(ゲートシティ大崎ウエストタワー16階)
TEL.03-5496-7671 FAX.03-5496-7856
<https://www.jot.co.jp/>



この冊子は、適切に管理された森林から生まれたFSC®認証紙、植物油インキおよび有害な廃液の出ない水なし印刷で印刷しています。